令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0372500447		
法人名	社会福祉法人やまどり福祉会		
事業所名	グループホーム ぽっかぽっかの家		
所在地	〒029-4501岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原坊主屋敷36番地3		
自己評価作成日	令和2年6月11日	評価結果市町村受理日	令和2年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の出来る事を伸ばし、好み、意向、身体的な部分を考慮し、生活スタイルに合わせた支援を心がけ、楽しみのある生活ができるように支援している。隣接の特養施設と合同の各種行事やイベント、いきいき体操、ボランティア部の活動受け入れに参加、地域文化祭、幼稚園、小学校等の行事にも参加,見学を行いできるだけ地域交流を図るようにしている。事前に企画し出かけたり、天候や職員動向を見ながら臨機応変に外出し、気分転換を図るようにしている。施設周囲の散歩時山菜を摘み、その処理をしていただき、記憶を思い起し懐かしんでいただく、畑で育てた野菜の収穫をし食卓に並び季節感を感じる。できるだけ活動量を上げ、脳トレを意識したレクを行い、心身機能の維持ができるように支援している。入居者同士、家族、職員との交流を深め、家庭的で住み慣れた家、安心して暮らせるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、法人を同じくする特別養護老人ホームに隣接し、豊かな自然環境と民家にも多く接する地域に位置している。「笑顔あふれる家」「心豊かな生活」「まごころ」の理念の下、出来ることはしっかりとしていただきながら、利用者それぞれに楽しみのある暮らしに繋げようと、職員が心を一つに取り組んでいる。利用者は、地域の百歳体操グループ活動にも定期的に参加し交流を深めている。幼稚園や小学校の子どもたちとは、ボランティア活動の受入れや主催行事への参加を通して、楽しく交流を続けている。職員は、理念やケアの必要事項などを掲載した職員手帳を拠りどころに、目線と方向性を合わせ、一人一人の違いを尊重した介護の実現を目指して、努力を重ねている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念については年度初めに法人の研修があり全員で参加し周知徹底を図っている。 「笑顔あふれる家」、「心豊かな生活」、「まごころ」について職員手帳やホール、玄関に提示、定期的に振り返り、理念に沿った支援ができているか確認している。	運営法人の理念を事業所理念として掲げ、毎年度、法人主催の職員研修の中で、再確認・共有しあっている。職員手帳（ハンドブック・ガイドブック）にも明記し、毎月の職員会議やケアカンファレンスでも振り返り、徹底している。全職員に、共有出来ているとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や地域の文化祭幼稚園行事、イベントへの参加、隣接の特養合同によるボランティア受け入れ、慰問、地域のいきいき体操への参加している。地域の神社や文化祭への作品の出品をしている。	普段は周辺の散歩を日課とし百歳体操に参加し、地域の方々と交流を重ねている。地元の幼稚園児や小学生とも行事への参加を通して楽しく交流している。地域の例大祭にも、地元から声がけをいただき毎年参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人としての夏祭りや敬老会、年末の餅つき、百歳体操等の参加呼びかけを家族や地域へポスター掲示、職員の地域への伝達等し交流している。 ぽっかだよりを毎月送付、配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し地域民生委員、相談員、利用者家族、行政の委員の方々に出席いただき、利用者の動向や活動状況取り組み課題等を報告し質問や意見を頂いたり、地域の情報をいただき、活かしている。会議の結果は職員会議等で報告し確認している。	利用者家族をメンバーに加え、隔月定例開催（本年はコロナで文書開催）している。内容は、報告だけではなく、食中毒や外出支援など、日常の暮らしに関連する報告や反省点などを詳しく説明し、意見等をいただいている。不定期だが、必要なテーマについて勉強会等も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月町委託の介護相談員2名の訪問あり、利用者や職員と和やかに交流し、地域の情報を頂いている。自治体主催の会議や研修に参加し、福祉センターや社協、治自体職員の出席あり、福祉や入所者について相談助言をいただいている。	主に運営推進会議や地域ケア会議等の場を通して、意見交換を行い、指導・助言をいただいている。日頃から担当者が直接要介護認定申請の書類を持参しており、顔見知りの関係となっている。介護相談員の定期的な訪問も行なわれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束指針を作成、職員手帳に明記、身体拘束防止委員を置き定期的に検討会を行い確認し、施設内研修を職員会議等で行い、申し送り等でも確認、話し合いを行っている。外部研修等該当する研修の機会があるときは研修している。法人内で身体拘束研修やチェック表にて振り返りを行っている。	法人として指針を作成し適正化検討委員会を職員会議と併せて毎月実施して、拘束排除意識を徹底している。言葉による拘束については、その場その場で気付いた際に職員相互に注意しあっている。玄関施錠は防犯対策上、夜間のみとしている。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	資料を元に具体的にどういうことが虐待になるのか学び、注意喚起を行っている。職員会議や申し送り、ミーテング等で日常のケアの中で言葉や態度についてきずいた点等話し合いをし、注意喚起を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方が1名いる。 職員認知度は不十分であるため外部、施設内研修により、利用者個々の尊厳を確保し、本人主導の立場に立って、出来る限り自立した生活ができるような支援となるよう今後進めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、後十分な説明を行い、疑問点などを伺い、説明し了解を得ている。また契約解除や退所時についても説明を行い、納得をしていただいている。規約や料金等の改定時は文書で通知し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料支払いや面会時、利用者の様子を伝え家族の意向を聞いている。契約時等に苦情窓口について説明し玄関に投書箱も設置している。外部機構や管理者ケアマネ等にも相談できることを説明。苦情やご意見があれば随時事業所で検討会を開催するようにしている。	普段の面会時や行事、運営推進会議で来所された際に、声がけをしながら意見や要望を伺うようにしてきたが、コロナ禍による面会制限で請求書、広報紙を郵送しながら意見等を伺うようにしており、担当職員からの手書きのお便りを通して、話しやすい雰囲気・環境づくりに努めている。外出への要望が多くあり、検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の意見は随時話し合い、解決するようにしている。毎月の職員会議やミーテイング、連絡ノートの活用により意見や要望を把握し自由に意見交換ができる環境とし、法人の毎月のフロア会議で意見を出し検討もしている。	毎月の職員会議や毎日のミーティング、申し送りの際に、報告、連絡、相談とともに、自由に意見を出し合っている。年に2回職員面談も行われ、意見等を管理者や運営者にも伝えている。職員からは、消耗品から設備、運営に至るまで、多くの意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、職員が個々に目標（資格取得）に向け働き、研修等への参加も勧めている。資格取得後は費用負担の支援や給与への反映し、それらを参考に人事考課制度を取り入れている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外への研修に積極的に参加できるように配慮し、受講後はカンファレンス等で職員に報告、報告書の回覧、勉強会を開催している。職員個々の状況や能力を鑑み、先輩職員のアドバイス、指導、検討会により、苦手部分の克服等働きながらトレーニングできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や日本グループホーム協会、いわて認知症地域密着型サービス協会等の定例会や研修に参加し情報交換や勉強会を行っている。新型コロナウイルスの感染症予防等のため今年度は機会がない状態となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、家族と　事前調査や面談し意向を伺い情報収集を行っている。他施設職員からも情報収集し、入所後は職員全員で十分な観察と傾聴により、本人の望む生活ができるように言葉がけを行い、家族にも安心していただけるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に面会に来れるような雰囲気つくりを心がけ、出来るだけ電話等で連絡し、支払い等で来所されたときにはホームでの生活の様子をお伝えし、意向を伺い安心していただけるように心掛けている。具体的に支援の方向性等について説明し了承をいただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前からの情報収集や入所後の心身の状況観察、多職種からの意見交換、連携し、本人家族の意向を考慮しながら優先項目を見極め援助を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の出来る力を見極め、その時の体調や状況を鑑み、意向に沿った暮らし方ができ、職員相互関係に助け合いができている。その方の能力に応じ他入居者のレク等で教えや仲立ち、見守りし職員に知らせてくれる、家事手伝い等。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所時は心身、生活の様子についてお伝えし、入っていただきお茶等だし、本人、職員との交流を図っている。何か急な事や、変わったことがあるとき、行事等への参加のお誘い等連絡している。毎月のぽっか便りにより安心、関心を持っていただく等共に支えていくという、関係作りに留意している。外出や外泊支援も勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ、外出、外泊支援し（家族にも依頼）、来所何時でも来所を受け入れ、面談や話しやすい環境作りに心掛け関係の継続ができるよう図っている。他地域の理髪店の出張散髪、地域店へ買い物等している。老人会の案内もある。	定期的に、家族や友人等が面会に来られる利用者もいるが、コロナ禍のためガラス越しでの面会としていただいている。訪問理容の方や会報を届けてくれる老人会の方や、百歳体操に参加する方々とも新たな馴みの関係になっている。今後も、馴染みの人やお店などとの繋がりを継続できる支援を大切にしたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の利用者関係を観察、その方の性格、心身の状態を見ながら、職員が間に入る、時にホールでの席替え等を考え、孤立を防ぎ、その方の良いところが引き出せるような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時はその後の方向性をについて助言や相談に乗りながら進めている。他施設への転所自党は担当者に本人の様子について説明し本人家族の意向をお伝えし、橋渡しを行っている。契約終了後も気軽に相談等出来る事をお伝えしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当制とし、日々の生活の中で会話や表情、職員や他利用者との交流や生活の様子等観察、把握、生活歴や家族、他施設の担当者からの情報を元に、本人の意向に沿うようにしている。ミーテイングやケース検討会、24シートの活用に情報共有している。	暮らし方の基本は、本人本位として無理強いしない暮らしを徹底している。話せる方は、普段の寄り添いや話しの中で聞き取り、上手く話せない方は、アセスメント資料や普段の表情や声がけの反応などから察するようにしている。不穏になるときは声掛けのトーンに配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、親戚、地域の方（ご近所）、それまで利用していたサービス事業所から情報収集し本人や面会時家族等とコミニュケーションを取るようにし把握するようにしている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックを行い体調管理し、必要な支援の選択をし方向性を決定している。日々の利用者間の関りや生活の様子を観察することで把握しているようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者と話し合い情報収集し、新たな変化や問題等発生した時はその都度、職員、家族、多職種（看護師、協力医、栄養士）に相談、意見交換している。毎日のミーテイング、連絡ノートの活用、ケース検討会の開催し、話し合いを行いケアプランの作成し職員の確認をとり周知を図っている。支払いや面会時等、家族への説明を行い、意向を確認し、了承を頂いている。	居室担当制を採っている。居室担当者の意見等を元に計画作成担当者がモニタリング資料を作成しカンファレンスを開催して、定例で3ヵ月ごと、状態変化時には随時ケアプランの見直しを行っている。職員は、全ての利用者に対する当事者意識を強く持って参加し、意見等を述べている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践したケアの記録は業務日誌や24シートに記録している。他に個別の気ずきノートがあり気が付いたこと、変化のある時など記載するようにし、ケアプランに反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用型共同生活介護、医療連携体制の指定を受け、自治体からの緊急要請にも応じる体制をとっている。個々の置かれた状況に応じ通院介助や、送迎を怒庵っている。その他一人暮らしの方で住所施設登録し、対応、成年後見制度利用者の担当者への連絡等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保健所（感染症）、消防（救命救急）等の講師として研修等を行っている。社協や自治体（主に運営推進会議）、地域介護相談員の訪問交流、情報提供、相談し支援につなげるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の施設医の回診があり、不定期だが皮膚科の往診もある。本人の置かれた状況、家族状況、病気の種類、病状に応じ、本人、家族の意向をもとに、外部への受診へも対応している。受診時は心身の状態をお伝えし、必要時はバイタルや症状等について書面をお渡ししている。受診後は施設Ns、Drに連絡報告、家族にお伝えしている。	利用者家族の希望するかかりつけ医となっている。通院の同行は、家族を基本としているが、都合があってできない場合は、職員が柔軟に対応している。日常の健康管理は、隣接する特養の看護師の協力を得ながら職員が行なっている。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の特養施設Ns，Drと医療連携を行っており、常時体調に変化あるとき、急変時は報告し相談し支持を頂いている。他科受診の指示やDrへの報告があり対応していただいている。また24時間オンコール体制をとり対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入、退院時、急変時受診介助し、診察に同行する。病院Ns，Dr、ケースワーカーと面談し、本人、家族の意向をお伝えし、情報交換、共有し支持を伺っている。 その後についても必要時病院を訪問し、方向性を検討し、本人、家族の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始時終末期に対する指針を説明。実際の場面時は早めに家族と面談し、希望をお伺い、地域の医療機関、施設医、家族を交えた話し合いを行い、方向性確認し、了承して頂き対応している。重度化した場合再度十分な説明し、終末期は連絡体制を強化し、多職種との連携を図り、家族への連絡をこまめにその都度行っている。	事業所の「看取り指針」を利用者家族に説明し、同意を得ている。現在は、対象となる利用者はいないが、職員は、特養の看護師の協力を得て、定期的に研修・勉強会を行い、知識・能力の向上に努めている。これまで、5人の方の看取りを経験し、必要時には家族と医師を交えて面談し方向性を再確認し、家族と共に連絡を取り合い対応してきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部や内部研修を行っている、緊急時のマニュアルは書面にし、見える所に設置しているが、しっかり確認し把握できているかは疑問であり、折に触れ確認していきたいと思っている。職員は全員救命救急講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防聞き業者や自治体、地域の協力を得ながら、隣接する特養と夜間帯の協力体制とり、年2回の防災訓練を実施し、そのうち1回は消防の立ち合いをしている。また緊急時の連絡体制を書面にし、確認できるようにし、地域自治会消防団と災害協定を結んでいる。11月16:30～夜間想定の避難訓練を実施した。	年に2回、事業所単独の夜間の火災想定訓練や特養と合同の豪雨を想定した訓練を実施している。今年は、コロナ禍で春の特養との合同の訓練は延期になり、これから実施予定である。地域の方々には、かけつけ協力隊として、協力をいただいている。職員もAED講習を受け、いざという時に備えている。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の様子を観察し希望に沿った、利用者本位の支援の方法を検討している。寄り添いや傾聴に心掛け言葉がけや対応を振り返り、チェックリストを活用し、ミーテイング等でも話し合いをしている。排泄時は特に言葉がけを工夫し留意している。	それぞれに「さん」づけで声がけし、居室への出入りの際には、必ず了解を得ることを徹底している。排泄誘導は、小さい声で近くで優しく声がけをするなど、羞恥心に配慮している。人生の先輩として敬い、様々な体験や地域の風習などを、職員は後輩として教わっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分な観察、傾聴、会話、しぐさ、表情、行動、態度や利用者間の関りの中から、居室担当制とし、モニタリング、私の気持ちシートにより本人の思いや希望をお聞きするなどより良い関係作りに心掛気持ちを汲み取り、話しやすい、わかりやすい問いかけで表出できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴、その日の体調、様子、他者との関り方等を観察し希望を伺ったり、汲み取りながら本人のペースで生活できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月理容師が来所する、希望を聞きながら家族とも相談しながら、好みの髪形に散髪したり、顔そり等している。自身で気に入った洋服を選び着る、化粧をする方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人、家族から　観察により嗜好や歯の状態、嚥下力、等の情報集を行い、日々の体調を考慮しながら食材の選択や刻み、トロミ、硬さの工夫を行っている。隣接の管理栄養士の助言を得ながらバランスの良い食事とし、準備から後かたずけを声がけしながら一緒に行い、季節感や盛り付け、色どり、手つくりおやつの工夫をしている。	特養の管理栄養士の助言と利用者のリクエストを聞きながら、職員が献立を立て、食材を買出し調理している。利用者は、食材の下拵えや配膳下膳、片付け、テーブル拭きなど、出来ることのお手伝いを行い、職員と一緒に食事している。昨年までは、回転寿司、ラーメンの外食もあったが、コロナ禍により、事業所前のテーブルでのコーヒーブレイクに代えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎日把握し、記録申し送りを行い、体調に留意している。毎日のバイタル測定を行い、病態や体調に応じた支援を行い体調管理をし、必要時は栄養士、看護師に連絡、相談し助言を得ている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣、持てる力を考慮しながら、歯磨きやうがい等の声がけし準備し、声がけや誘導、介助により、清潔の支援を行っている。他に義歯の洗浄や消毒し、歯科医、歯科衛生士の訪問があり見ていただき指導を受けている。問題あるときはご家族の報告し対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況の観察をし支援の必要な点について検討し、出来るだけ自然な排泄とし、誘導により失敗を減らし、全員トイレでの排泄支援をしている。安易なリハパンやパット、おむつへの移行せず持てる力の維持継続支援をしている。夜間のみポータブル使用の方もいる。	職員は、開設以来「トイレでの自立排泄」をモットーに、利用者に寄り添っている。利用者全員トイレを使用し、職員は出来るだけ現状の維持に向けて支援し、失敗しても拘らずに優しく対応している。自尊心を傷つけないように、オムツは最終手段であるようにしたいと職員は願っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を行い、毎日のミーテイングでの申し送りをし、排便状況を把握している。その上で食事、水分量、活動アップへの支援を行い、支援し、NsやDrにも報告相談し支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日、時間帯は設定しているが、本人の体調（毎日のバイタル測定）や気分、希望をお聞きしながら流動的に対応している。男性、女性介助の希望をお聞きし個浴とし、浴室の飾りつけの工夫し、言葉かけや態度に留意し、プライバシーに配慮した対応し週3回行っている。	週3、4回程度、午後の入浴を基本としている。浴槽は、個浴のソファ型を導入し、それぞれ一人で静かに過ごしたり、職員と楽しく語らいながら本音が出ることもあり、利用者の癒しの場にもなっている。希望を聞きながら、入浴剤や菖蒲湯や柚子湯なども取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴、習慣、病歴、体調を考慮しながら、本人の希望で自由にできるようにしている。体調的に心配な方については声がけ誘導し対応している。居室の温度管理や掛物の調整、本人の好みの飾りつけ、馴染みの物を置き、安心できる環境としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前服薬時複数職員で確認し名前を読み上げ、説明している。目的、用法、用量、影響について把握するようにしているが、きちんと理解しているか不安なところもある。Nsと密に情報共有し、相談連絡を取り、Dr、家族に連絡し対応をしている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、好み、日々の観察を元に得意、不得意を把握し、本人の希望をお聞きしながら、自由意思でそれぞれに合ったものをする。他入居者との関りにおいても役割や、助け合いなどで生きがいを持っていただき、外出、散歩等変化のある暮らしの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら気軽に散歩（ほぼ毎日）、ドライブ、買い物等の支援を行っている。普段行けない遠くのハイキングやドライブ、野外ランチを企画し外出し、気分転換を図っている。地域行事に合わせて出かけ、地域資源の活用を図っている。隣接する特養施設への行事等に参加する機会も多い。家族との外出や外泊の支援をし、散歩時山菜を摘み食卓に出る楽しみもある。	これまではホームの周りを散歩したり、花見、買い物に出かけていたが、コロナ関連で、玄関前での日光浴、外気浴、ホームの畑での収穫、草取りで我慢し、代わって室内での裁縫、折り紙、新聞、洗濯物の手伝いなどで過ごしている。	思うように外出が出来ない中、利用者のストレス解消・気分転換を図り、ご家族との絆を深めるため、ご家族の理解と協力を得るなど、外出支援の取組みを工夫されるよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は預かり金として対応している。利用者の能力や状態に応じ外出時、買い物時、お花見の屋台で好きなものを購入する、自動販売機から飲み物を購入することがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書中見舞いや年賀状等家族に宛て書くいていただいる。電話も希望時や、遠方にいらっしゃる家族と電話にて話していただき安心していただいている。ぽっか便りを毎月発行しているが利用者様からのコメントを添える等、今後増やしていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール居間兼食堂で誰でも自由に利用でき、四季折々の景色や畑の様子が眺められるようになっている。それを見ながら雨が降っている、風がある、雪が降っている等利用者同士の会話につながっている。共用のソファ、畳の談話室があり自由に本を見たり、昼寝をしたりと、ホールを中心に回廊式の居室があり開放的になっている。季節や行事の飾りを一緒に作り飾っている。	窓からは日差しが差し込み、四季折々の景色や畑の様子が眺められるようになっている。雨が降っている、風がある、雪が降っているなど、利用者同士の四季の会話に繋がっている。開放的な共有スペースには、テーブルやソファーがゆったりと配置され、利用者は、好きな場所に座って好きなことをしながら過ごしている。壁には季節ごとに職員と一緒に作った飾りが掲げられている。日々の清掃と整頓が徹底されている。	

令和 ２ 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時には一応席が決まっているが、どこに座るも基本自由であり、ソファ設置しており気の合った方達と自由に座り会話やTV鑑賞している。また談話室で一人本を見たり、日の当たる畳の上で横になるなど気持ちよく自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族と相談したうえで馴染みの物や家具、、TV、写真や趣味の物を置き、位牌を持って来ている方もおり、本人の好みの飾りつけや置き場所を決めている。レクで作ったものなども居室に飾る等希望に合わせ自由にできる。	ベッドやタンス、机や椅子、洗面台、空調が備え付けられ、持ち込んだテレビやラジオ、馴染みの時計やカレンダー、家族写真などを、それぞれに置いたり掛けたりしている。位牌を持ち込み、毎日手を合わせている利用者もいる。清掃は、利用者と職員とで行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースとしてトイレや居室には名前や飾り、手つくりカレンダーを配置、洗面所、ホール、談話室、事務所等わかりやすくし、自立支援としている。それぞれの持てる力を生かせるよう、職員からも見守り、声がけがしやすいつくりとなっている。要所要所にごみ箱を設置しごみを拾い入れる。		